

九州大学箱崎キャンパスにおける 近代建築物紹介資料

- ・旧応力研究生産研本館(法文学部本館)
- ・旧文学部心理学教室
- ・第三学生集会所(三畏閣)
- ・応用物質化学機能教室(応用化学教室)
- ・工学部高温化学実験室

平成27年10月

九州大学箱崎キャンパスにおける
近代建築物の評価報告書に基づく取り扱い検討委員会

箱崎キャンパス内の近代建築物

今回、見学・撮影の対象は の建築物5棟です



第三学生集会所
(昭和12年建築)



道路工学実験室
(大正14年建築)



超伝導システム科学研究センター
(昭和6年建築)



建築学教室
(昭和35年・45年建築)



松浜厚生施設
(昭和3年建築)



保存図書館
(大正14年建築)



工学部本館
(昭和5年建築)



創立五十周年記念講堂
(昭和42年建築)



旧文学部心理学教室
(昭和2年建築)



記録資料館
(昭和12年建築)



旧応力研生産研本館
(大正14年建築)



正門
(大正3年建築(推定))



正門門衛所
(大正3年建築)



本部第三庁舎
(大正14年建築)



本部第一庁舎
(大正14年建築)



応用物質化学機能教室
(昭和2年建築)



工学部高温化学実験室
(昭和7年建築)



原子核実験室
(昭和19年建築)



農学部6号館
(昭和13年建築)



農学部実験室
(大正10年建築)



砂防工学実験室
(昭和9年建築)



熱帯農学研究センター
(昭和6年建築)



船舶海洋工学実験室
(大正10年建築)



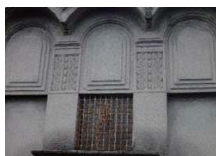
航空工学教室
(昭和14年建築)



留学生センター分室
(昭和4年建築)

近代建築物紹介資料

旧応力研生産研本館(法文学部本館)



【解説】

・外観のデザインでは、塔屋上部の連続する円弧状庇と、腰壁と呼ぶには余りに丈高く2階半ばに及ぶ水平の分厚いモールディング（段差などに施す建築意匠）が強く目を引く。このため、様式主義の建築のように思われがちだが、屋上から中庭を俯瞰すると窓周りなど装飾は極力排されていて、この建築が紛れもなくモダニズムの文法に従って構成されていることが分かる。ステインドグラス、タイル、メタルワークをみるとむしろアール・デコを意識したとも推測できる。設計図を見る限り、鉄骨の架構にコンクリートを被覆しているようで、フープ筋（柱に使用する剪断補強筋）を巻いていない分、現在の鉄骨鉄筋コンクリートより靱性に乏しいことが懸念される。1階の研究室、廊下、階段室を除いて内装は多くの部屋で改められている。

1. 建設年	1925年、大正14年
2. 設計者または組織	倉田謙
3. 施工者（設備・基礎工事等請負会社が異なる場合は記載）	岩崎組（現岩崎建設）、大正15年の背面部増設は佐伯組担当
4. 規模	
・階数	地上4階
・面積	9,570㎡
・正面×側面	60m×69m
5. 方位（正面玄関の向き）	南東
6. 構造（木造、煉瓦、RC、鉄骨）（組合せもあり）	鉄骨鉄骨コンクリート
7. 増築時期（記録に基づく）	-
8. 大規模改修の時期（記録に基づく）	-
9. 利用状況	平成18年から閉鎖中
10. 資料（図面等）	図面40枚+21枚有
11. 経年（平成27年4月1日時点）	90年
12. 耐震性能（I s, 調査年度）	-
13. 耐震経年指標（T, 調査年度）	-
14. コンクリート中性化深さの平均（mm）	25.3
15. コンクリート圧縮強度（N/mm ² ）	9.5
16. 受賞歴、または、文献（出版社等）への記載等	- 総覧 日本の建築第9巻/九州沖縄（新建策社）、福岡の近代化遺産（弦書房）、福岡県の近代化遺産（財・西日本文化協会） - 平成17年度九州大学箱崎キャンパス内歴史的資源の現況調査成果報告書

【コメント】

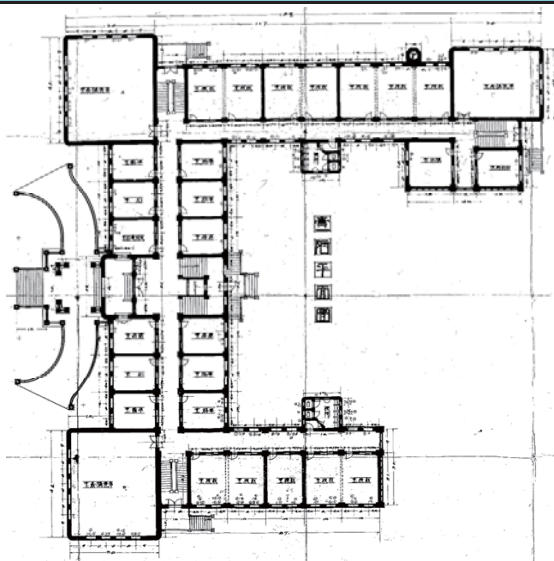
・大正末期に法文学部本館としてつくられた、関東大震災後の初期鉄筋コンクリート造建築。1964(昭和39)年の文科系貝塚地区移転まで法文経学部本館として使われた。
 ・独特の装飾と堂々とした風格のある倉田謙の代表的作品のひとつ。デザイン的には福岡日日新聞本社との類似性が確認できる。倉田式セセッション（幾何学的意匠や渦を巻く植物模様が見られる様式）確立期の作品であり、意匠上の見所が多い。大規模な建物であるため、二期(1925(大正14)年2月に本館前面、翌年3月に背面)に分けて建造が行われた。スチーム暖房、自動エレベータの設置など技術史的な評価も高い。

参考文献

・平成17年度 九州大学箱崎キャンパス内歴史的資源の現況調査 成果報告書（平成19年2月 九州大学）
 ・九州大学箱崎キャンパスにおける近代建築物の評価報告書（平成24年12月 九州大学箱崎キャンパスにおける近代建築物の調査ワーキンググループ）

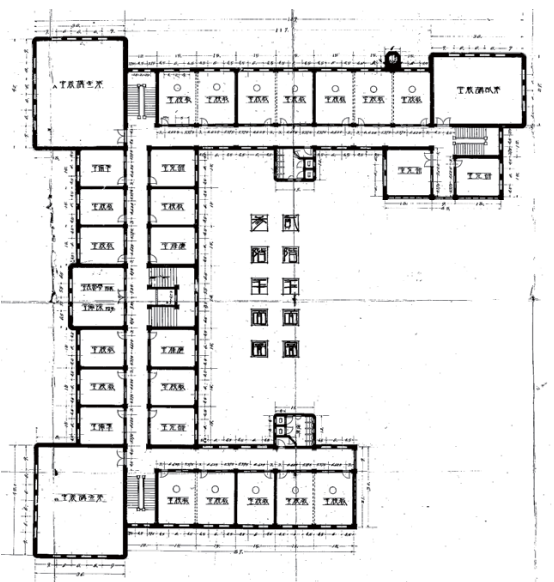
設計図面

旧応力研生産研本館(法文学部本館)



九州帝国大学法文学部新築設計図

図面説明



九州帝国大学法文学部新築設計図

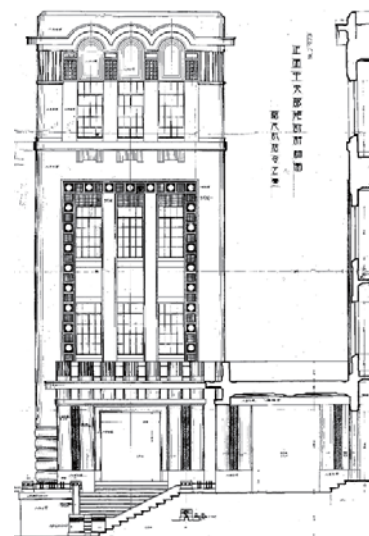
図面説明



正面図



左側面図



正面から見た断面図
断面は図面を参照

近代建築物紹介資料

旧文学部心理学教室



【解説】

- ・小規模な建築ながら、玄関回りの壁は吹寄せ筋影のある曲面で構成され、礎石に浮彫りを施し、海老茶色のタイルで出入口を縁取るなど配慮がなされている。玄関庇上の塔屋の窓も2層分同系色のタイルで囲まれ、各層窓間の壁面には浮彫りが認められる。窓台には傾けた煉瓦タイルを用い、内部の階段はメタルワークを埋め込んだ親柱とともに黒い御影石で造られる。天井は6段の細かい縦形縁を回して折上げられ、窓はスチール製の二重サッシ、梁下端の唐戸面が品よく、細部まで丁寧に仕上げられた佳品である。

1. 建設年	1927年、昭和2年
2. 設計者または組織	倉田謙
3. 施工者（設備・基礎工事等請負会社が異なる場合は記載）	不詳
4. 規模	
・階数	地上2階
・面積	628㎡
・正面×側面	24m×17m
5. 方位（正面玄関の向き）	南東
6. 構造（木造、煉瓦、RC、鉄骨）（組合せもあり）	鉄筋コンクリート
7. 増築時期（記録に基づく）	-
8. 大規模改修の時期（記録に基づく）	平成2年
9. 利用状況	埋蔵文化財研究室等として使用中（平成27年10月より閉鎖予定）
10. 資料（図面等）	図面9枚有
11. 経年（平成27年4月1日時点）	88年
12. 耐震性能（I s，調査年度）	0.89 一次，H18調査
13. 耐震経年指標（T，調査年度）	0.8 ， H18調査
14. コンクリート中性化深さの平均（mm）	56.3
15. コンクリート圧縮強度（N/mm2）	24.4
16. 受賞歴、または、文献（出版社）への記載等	・総覧 日本の建築第9巻/九州沖縄（新建築社） 福岡の近代化遺産（弦書房） 福岡県の近代化遺産（財・西日本文化協会） ・平成17年度九州大学箱崎キャンパス内歴史的資源の現況調査成果報告書

【コメント】

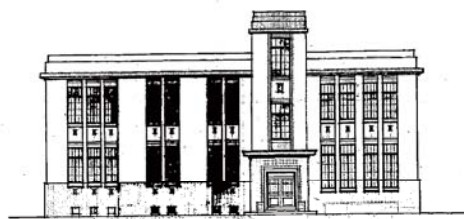
- ・九州大学の講座の中でも特異な歴史を持ち、心理学を確立させ、更に発展に寄与した。構内に残る他の建物と比較するとデザインの系譜がやや異なるが、心理学の教授である佐久間鼎の希望によりドイツの建物のデザインを踏襲したためと言われる。日本の心理学研究で九大心理学教室が果たした役割は大きく、これは九州大学の研究レベルを建物というかたちで表したものといえる。そもそも心理学教室のみ棟を分けていることから九州帝国大学におけるこの施設の重要性が想像できよう。建築としては倉田謙の作品のデザインの特徴からはずれた異色作と言える。佐久間は日本における心理学の権威であり、建物の設計にも大きく影響したと言われる。鉄筋コンクリート造の特色を生かした造りで、当時の造形感覚にとらわれない形態を生み出した。

参考文献

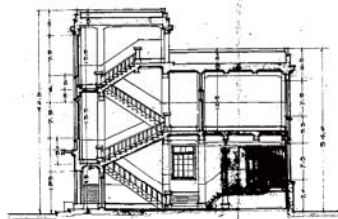
- ・平成17年度 九州大学箱崎キャンパス内歴史的資源の現況調査 成果報告書（平成19年2月 九州大学）
- ・九州大学箱崎キャンパスにおける近代建築物の評価報告書（平成24年12月 九州大学箱崎キャンパスにおける近代建築物の調査ワーキンググループ）

設計図面

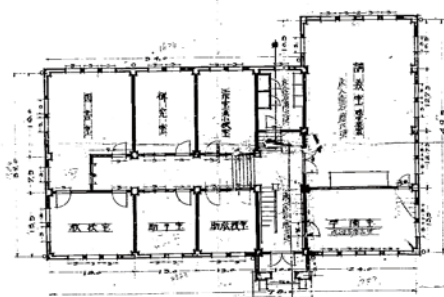
旧文学部心理学教室



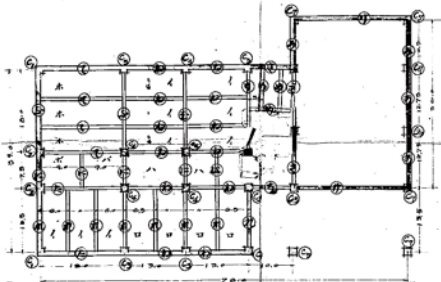
正面図



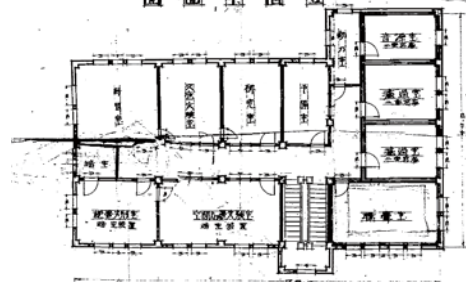
A-B断面図



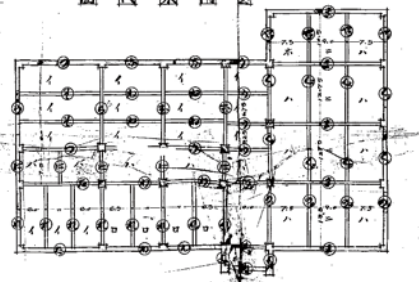
平面図



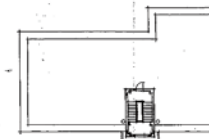
平面図



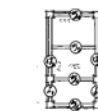
平面図



平面図

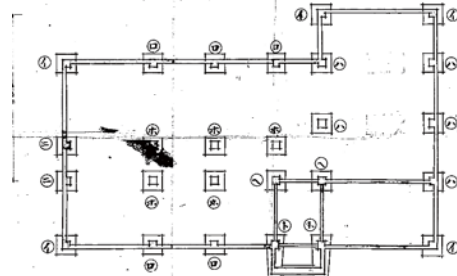


平面図

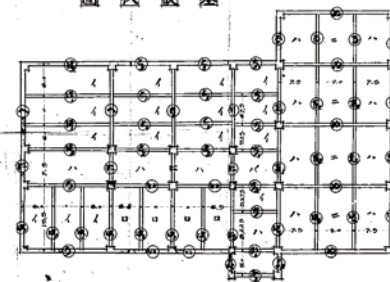


平面図

平面図



平面図



平面図

九州帝國大學法文學部
新築設計圖

縮尺 百分之一

近代建築物紹介資料

第三学生集会所(三畏閣)



【解説】

・「三畏閣」の名で、学生、教職員に長年親しまれてきた純和風の集会施設である。北面して立つ、入母屋造、妻入、桧瓦葺の2階建には、上下あわせて5室、床の間と縁側の付いた和室がある。玄関広間の左手には、切妻造、桧瓦葺で、床の間のほか、縁側、出窓付きの大集会場があり、折上げ格天井を供えた本格的な書院となっている。池のある和風庭園を挟んで書院の向こうには四周を縁側で囲まれた特別集会室があり、炉が切られ、茶道部の茶会や練習に利用されていた。外壁は基本的に下見板張り、縦縁押えを用いている。

1. 建設年	1937年、昭和12年
2. 設計者または組織	不詳
3. 施工者（設備・基礎工事等請負会社が異なる場合は記載）	不詳
4. 規模	
・階数	地上2階
・面積	453 m ²
・正面×側面	22m×33m
5. 方位（正面玄関の向き）	北東
6. 構造（木造、煉瓦、RC、鉄骨）（組合せもあり）	木造
7. 増築時期（記録に基づく）	-
8. 大規模改修の時期（記録に基づく）	-
9. 利用状況	平成27年から閉鎖中
10. 資料（図面等）	図面4枚有
11. 経年（平成27年4月1日時点）	78年
12. 耐震性能（I s, 調査年度）	-
13. 耐震経年指標（T, 調査年度）	-
14. コンクリート中性化深さの平均（mm）	無
15. コンクリート圧縮強度（N/mm ² ）	無
16. 受賞歴、または、文献（出版社）への記載等	- 福岡の近代化遺産（弦書房） - 平成17年度九州大学箱崎キャンパス内歴史的資源の現況調査成果報告書

【コメント】

- ・「三畏閣」名前の由来・・・荒川文六総長（第6代）によって命名。三畏とは、「論語」にいわれる君子の畏れるべき「天命、大人（人格が高い人）、聖人の言」のこと。
- ・日中戦争勃発の1937（昭和12）年、学生の福利厚生を充実していくことで思想善導を図る観点から建てられた。
- ・伝統的構法による比較的大きな規模の木造建築物であり、広々とした和室縁側を設けゆったりとした空間である。広い座敷に3間（1.8×3メートル）に及ぶ長押を用い見事である。柱時計など一部調度品にも産業遺産としての価値を認めることが出来る。
- ・キャンパス外の敷地に長く存在し続け、学生と教師の交流の場として大切な役割を果たしてきた建築物。

参考文献

- ・平成17年度九州大学箱崎キャンパス内歴史的資源の現況調査 成果報告書（平成19年2月九州大学）
- ・九州大学箱崎キャンパスにおける近代建築物の評価報告書（平成24年12月九州大学箱崎キャンパスにおける近代建築物の調査ワーキンググループ）
- ・福岡の近代化遺産（平成20年1月九州産業考古学会（編））

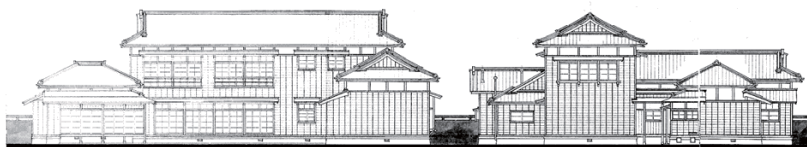
設計図面

第三学生集会所(三畏閣)



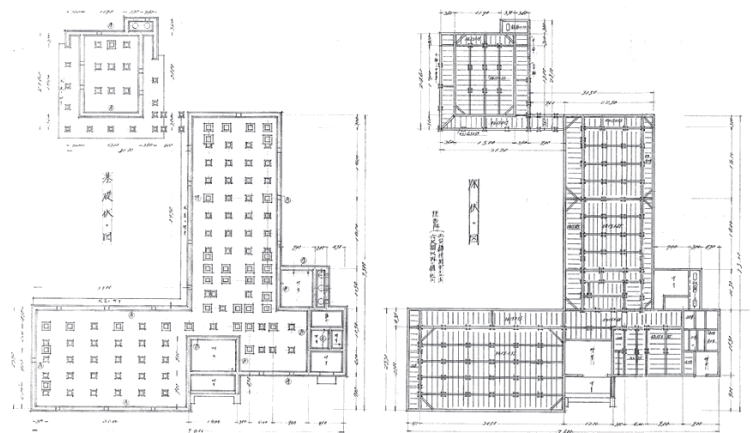
左側面図

右側面図



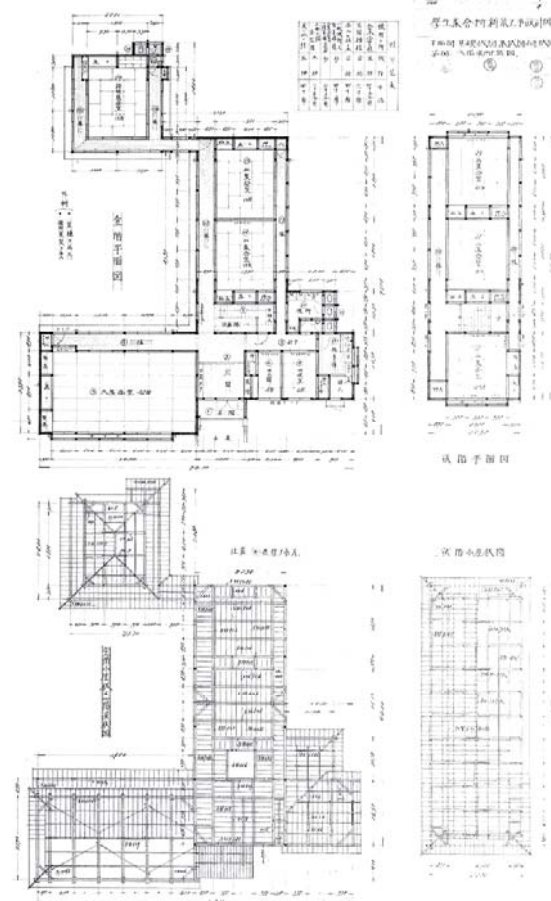
正面図

背面図



1F平面図

2F平面図



第三学生集会所(三畏閣)

1F平面図

2F平面図

3F平面図

4F平面図

5F平面図

6F平面図

7F平面図

8F平面図

9F平面図

10F平面図

11F平面図

12F平面図

13F平面図

14F平面図

15F平面図

16F平面図

17F平面図

18F平面図

19F平面図

20F平面図

21F平面図

22F平面図

23F平面図

24F平面図

25F平面図

26F平面図

27F平面図

28F平面図

29F平面図

近代建築物紹介資料

応用物質化学機能教室(応用化学教室)



【解説】

・1944（昭和19）年に実施された空襲回避のための偽装塗料が残っていて、ところどころ黒ずんでいるが、3つの量塊のプロポーシオンが整っているため、落ち着いた風格が感じられる。正面の窓の割付は、中央の窓を軸に左右対称、しかも中央が3つで1組をなす以外は、2つの窓が1組をなして等間隔で並んでいる。加えて、各量塊の頂部を取り巻く突起物のバンドが絶妙なバランスを保っていること、一階中央の庇前面に渡した梁が単調になりがちなファサードを見事に分節していることが、風格を生んでいる。背面から中央部をみると、そこが階段室になっており、窓の高さは階段の傾斜に沿って右上がりに変化していること、その結果左右が非対称になっていることに気づく。また、背面では3つの窓で1組をなす割付けが東西両翼の突出部に認められ、その間は平坦で、量塊のバランスも変わっている。正面の静に対して背面のリズミカルな窓配置は、この建物の魅力の一つである。

1. 建設年	1927年、昭和2年
2. 設計者または組織	倉田謙、小原節三（設計技師）
3. 施工者（設備・基礎工事等請負会社が異なる場合は記載）	佐伯組（現佐伯建設）
4. 規模	
・階数	地上4階
・面積	2,782㎡
・正面×側面	49m×22m
5. 方位（正面玄関の向き）	北西
6. 構造（木造、煉瓦、RC、鉄骨）（組合せもあり）	鉄筋コンクリート
7. 増築時期（記録に基づく）	－
8. 大規模改修の時期（記録に基づく）	－
9. 利用状況	平成18年から閉鎖中
10. 資料（図面等）	図面24枚有
11. 経年（平成27年4月1日時点）	88年
12. 耐震性能（I s, 調査年度）	－
13. 耐震経年指標（T, 調査年度）	－
14. コンクリート中性化深さの平均（mm）	73.6
15. コンクリート圧縮強度（N/mm2）	12.4
16. 受賞歴、または、文献（出版社）への記載等	・近代化産業遺産群 続33の選定（経済産業省） ・福岡の近代化遺産（弦書房）、福岡県の近代化遺産（財・西日本文化協会） ・平成17年度九州大学箱崎キャンパス内歴史的資源の現況調査成果報告書

【コメント】

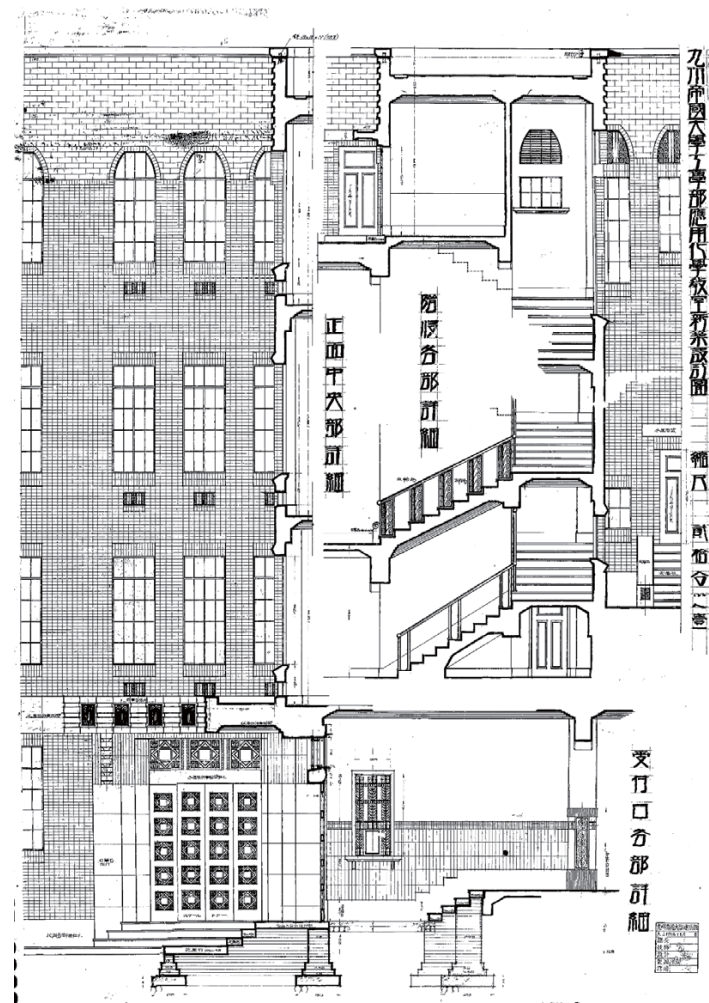
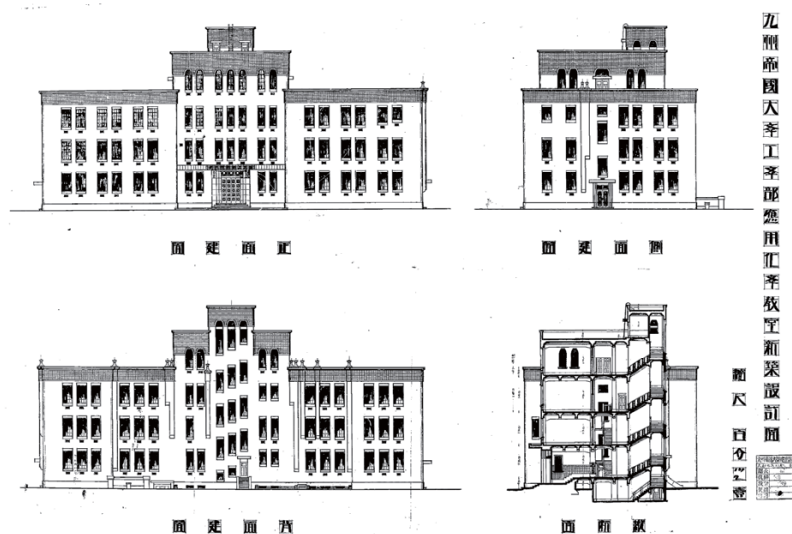
・昭和初期に建設された建築物で、外観内装共に優れる倉田作品。工学部本館との類似もしくは移行期の特色がみられる。1923(大正12)年の工学部本館の火災を契機に、火気を避ける意味から本館とは別棟で建築されたものである。「地蔵の森」に隣接する本建物の姿は美しく、よく写真にも撮られている。
・初期の鉄筋コンクリート構造の建築物で、内部も建設当時の姿を色濃く遺しており、当時の実験の様子が極めて分かりやすい。応用化学の発展期の遺産であり、タイル張建築の早い事例。その時代の主張が屋根・窓などの各所に見られ、通気口を効果的に配置している。軒部分に凹凸を持ったタイルを並べる特徴は工学部本館などでも見られるが、こちらはそれに加えて背面階段室の窓配置等にも興味深いデザイン性を確認できる。蛇腹式の初期エレベータ施設は産業遺産としての価値を持っている。外観はアカデミックな雰囲気を示し、多くの人に受け入れられた。

参考文献

・平成17年度 九州大学箱崎キャンパス内歴史的資源の現況調査 成果報告書（平成19年2月 九州大学）
・九州大学箱崎キャンパスにおける近代建築物の評価報告書（平成24年12月 九州大学箱崎キャンパスにおける近代建築物の調査ワーキンググループ）

設計図面

応用物質化学機能教室(応用化学教室)



近代建築物紹介資料

工学部高温化学実験室



【解説】

- 基本的に応用物質化学機能教室のデザインを平屋に転用したもので、ごく丈の低いパラベット（手すり壁）をコーニス（装飾的な水平帯）状に陸屋根の周囲に巡らせている。実験室だけあって柱は高く、梁から天井への折上げも丁寧な仕上げである。

1. 建設年	1932年、昭和7年
2. 設計者または組織	各務一雄
3. 施工者（設備・基礎工事等請負会社が異なる場合は記載）	不詳
4. 規模	
・階数	地上1階
・面積	278㎡
・正面×側面	21m×15m
5. 方位（正面玄関の向き）	北西（渡り廊下）
6. 構造（木造、煉瓦、RC、鉄骨）（組合せもあり）	鉄筋コンクリート
7. 増築時期（記録に基づく）	－
8. 大規模改修の時期（記録に基づく）	－
9. 利用状況	平成18年から閉鎖中
10. 資料（図面等）	図面6枚有
11. 経年（平成27年4月1日時点）	83年
12. 耐震性能（I s, 調査年度）	－
13. 耐震経年指標（T, 調査年度）	－
14. コンクリート中性化深さの平均（mm）	48.0
15. コンクリート圧縮強度（N/mm ² ）	25.9
16. 受賞歴、または、文献（出版社）への記載等	平成17年度九州大学箱崎キャンパス内歴史的資源の現況調査成果報告書

【コメント】

- 昭和初期の鉄筋コンクリート造の建築物で大学内の化学研究に大切な役割を果たした。煉瓦造から鉄筋コンクリート造に移行した時期の実験施設であり、70年以上改造されることが重要。実験室といえども施工技術が優れている。
- 周囲は緑に囲まれており、樹木と調和した景観を形成している。本来庇がある位置に凹凸を付けたタイルを配置するなど、タイルを窓や入口の庇に装飾的に用いて変化をもたらせている。

参考文献

- 平成17年度九州大学箱崎キャンパス内歴史的資源の現況調査 成果報告書（平成19年2月 九州大学）
- 九州大学箱崎キャンパスにおける近代建築物の評価報告書（平成24年12月 九州大学箱崎キャンパスにおける近代建築物の調査ワーキンググループ）

設計図面

工学部高温化学実験室

